

市民プレス

令和元年
(2019年)
7月5日
第85号

発行人 「市民フォーラム」
編集人 原 昭二
制作 デジタル工房
TEL 090(3048)5502
〒353-0004
埼玉県志木市本町 2-4-3

E-mail
hara@camelianet.com



市民の目線で市民が発信する地域情報紙

WEB SHIMIN
<http://shimin.camelianet.com>

CONTENTS

- PAGE 1
旧制高等学校とは・・・
個人的な体験談 - 「入学式」と
自治体制の寄宿「武原寮」
- PAGE 2
寮生活が始まって・・・
昭和十九年(1944)は終戦の前年のこと
になる。サイパン島の玉砕 東京大空襲
- PAGE 3
寮歌を唱う・・・
ポツダム宣言の受諾 ソ連軍の進攻
マッカーサーが日本に到着
- PAGE 4
第二十三回卒業五十周年
記念文集、「櫟林」から

旧制高等学校の 最後を見届けて・・・

旧制高等学校は戦前の教育制度で、旧帝国大学の予科として存在し、華麗なエリートを輩出した。その由来は、明治十九年(1886)に公布された中学校令で、八校(東京の「第一」、仙台の「第二」、京都の「第三」高校)ほかの所謂「ナバースクール」が設立され、のちに高等学校に移行した。

第一次世界大戦の好景気に沸く日本は、工業力が発展して、帝国大学の増設、定員増が求められる、大正九年(1920)のころ、官立の高等学校二十校、中学、高校を合わせた私立の七年制が発足した。

旧帝大の定員は、当初、旧制高校の卒業生の人数と略々同数だったので、卒業生は学科を選び好みを選ばなければ、各地の帝大にストレートに進学できる特権があった。従って受験勉強に青春時代を費やす必要が無く、有り余る時間とエネルギーを全て精神的・肉体的成長の為に注ぎ込むことができた。

旧制高校生のスタイルは、白線帽・高下駄・黒マント・手拭いの弊衣・破帽スタイルに身を

包んで街を闊歩し、「デカンショ」と略されたデカルト・カント・ショーペンハウヘルの必読哲学書を読んでは思索を深め、議論することを楽しみ、酌量しては友と肩を組んで、各校に伝わる寮歌を放吟した。又、ストームと呼ばれる狂乱の騒ぎで青春の力を爆発させ、「ゲル」(お金)「ゾル」(兵隊)「メツチェン」(女子「ドッペル」(留年する)等のドイツ語由来の独特の旧制高校用語を多用し、「白線生活」と呼ばれるバンカラの三年間を過ごした。

但し、新設された私立の七年制高等学校は、紳士を養成する英国のパブリックスクールを模範とし、スマートな校風で官立高校のバンカラ主義とは一線を画していた。

戦後の学制改革と共に、「旧制高校」化の魅力は、日本からすっかり失われてしまったが、今なお、その文化的な側面に惹き付けられる人々は少なくない。

「旧制高校」システムの力点は、所属の文理を問わず、古文漢文・外国語・文学・哲学・倫理学・論理学・歴史学等のいわゆる「教養」(リベラルアーツ)を幅広く学んで人格を涵養し、将来、各分野のリーダーとしてのバックボーンを形成することにあつた。

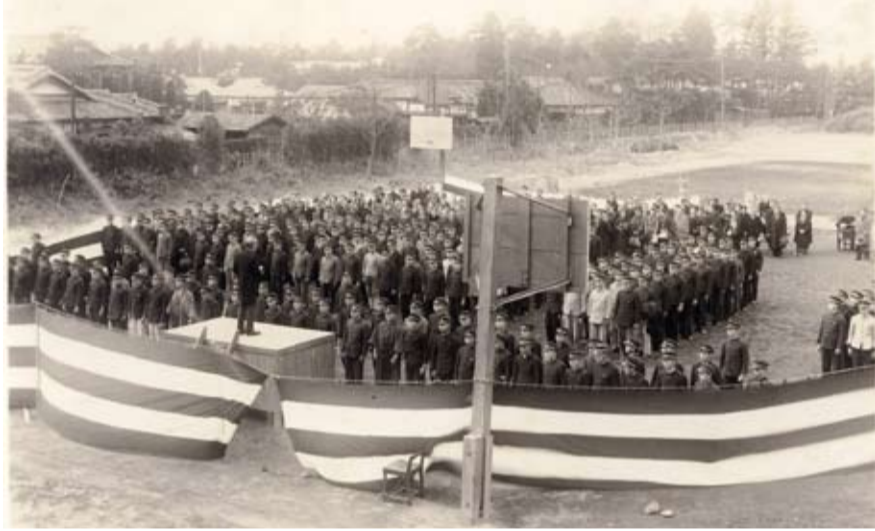
時は、太平洋戦争の敗色が漂う昭和十九年(1944)、すなわち、終戦の前年のことである。

本紙編集人の原は、埼玉県浦和市に所在する県立「浦和中学校」から西方となる、「北浦和の向かい側に在った、旧制「浦和高等学校」に入学した。四月初頭、戦時下であつたにも拘らず、青春のモラトリアムにときを過ごすことができた。

一周すると400米の広いグラウンドの一面で入学式が行われた。校庭の赤松が、校舎を囲み、二階建て、六棟もの学寮に入居する、全寮制の学園生活が始まった。

入寮のイベント・・・指定された学寮の部屋に、布団などの寝具と、日用品を運び込む。扉を開けると左右、確かに六畳の部屋に分かれ、一年上級の室長を加えて、三名づつが入室した。辺りが何となく騒がしくなる。マントを冠ったり、お面を付けたら、悪魔風を装った上級生のお迎え・・・所謂ストームの襲来である。

グラウンドで 自治体制の寄宿への「入寮式」 入寮歓迎晩餐会



入寮式 昭和19年4月1日 歓迎寮歌「城北十里」の高唱で



赤松に囲まれた
校舎の群像



創立期の鳥瞰図



寮生活が始まって・・・

同室の友人で、一番若かったものが、剥ぎ取られて素っ裸にされる。私と並んで寝る筈の友人は、当時、清朝(のちには中国となる)からの租借地だった関東州、大連から、遙々朝鮮半島を縦断して、日本列島に上陸、なぜか浦和高校を目指したのである。しかし、戦時中の混乱のため、荷物一切が着荷する気配は全く無かった。事情を聞いた悪魔さんは、私に命令した。お前の寝具は立派過ぎる！

英語のテキストには・・・

good by chips(チップス先生さようなら)が選ばれた。当時英語は敵国語だったので、旧制高校の入試科目には入っていないかった。しかし、入学後には、一転して主要科目となる。

米国とその連合国の攻勢は激しさを増し、健康であれば、何時徴兵されるかは目前に迫る、という雰囲気だったので、講義は最高度のスピードで進められ、四月に開始されたチップス先生は、六月には完読して、学期のテストを迎える。

寮の同僚には、成績なんて問題にするな、と投げものがあり、一方では、布団を被って音読するものもあり、だったが、教室で、丁度隣席になる太田君は、私とタグを組むカンニングの計画を持ち掛けてきた。テキストを前後に分割し、私が前半を受けもち、彼は後半を精読して、答案を遣り取りする、というものだった。しかし、必勝を期した作戦だったが、もうくも敗れ去る。というのは、試験監督の先生は、まるで戦術を熟知されていたのか、太田君の席近くを離れなかった。そして、テスト

「武原寮」のペランダは 大事な思索のスペース



は全部、前半から出題されたので、私の答案はほぼ正解だったが、答案用紙を太田君と遣り取りするとは不可能に終わった。

ドイツ語の講義は、文法で始まり、ich bin, du bist, ihr ist.(私は、君は、貴方は)英語の be 動詞の変化を、声高く読み上げる。さて、次の授業では、先生から指名された小菅君が立ち上がり、復唱する。声高く、ich bin, ich bin, ich bin, は繰り返された。しかし、du bist には一向に進まない。時間は経っても先生は待つだけで、助けは皆無、以後、イッヒビンは、小菅君のニックネームとなる。

信じ難い能力の持ち主・・・

もう一人の友人、彼は、なんと何時でも、頼まれれば、方を揺すって起こしてくれる。自分は眠る時間があったいあるのか? 誰もが不審をもった。後で分かったことだが、子供のときから、家族も無く、孤独で、新聞配達収入で暮らして、学校にも行かれなかったらしい。自力で、高校に進学する資格を取得した。苦勞人である。



「機甲班」の部屋前で 機甲とは・・・



西二寮「機甲班」のメンバー



「武原寮」西二寮一階の部屋で

自転車からオートバイ、四輪車まで分解と組立て

昭和十九年(1944)は終戦の前年のことである。	昭和三十九年(1964)は終戦の前年のことである。
二月、米軍は太平洋に浮かぶマーシャル群島に上陸、日本軍守備隊は敗退、東條英機首相は、人心を一新するため、内閣改造。	二月、米軍は太平洋に浮かぶマーシャル群島に上陸、日本軍守備隊は敗退、東條英機首相は、人心を一新するため、内閣改造。
三月、インド北東のインパールを目指した陸軍の作戦では、悲惨な敗北を喫した。	三月、インド北東のインパールを目指した陸軍の作戦では、悲惨な敗北を喫した。
四月 五月	四月 五月
六月、連合国軍は、イタリアのローマを占領し、ノルマンディー上陸作戦を開始。	六月、連合国軍は、イタリアのローマを占領し、ノルマンディー上陸作戦を開始。
日本では、米軍がサイパン島に上陸、マリアナ沖海戦で、日本海軍の空母機動戦力を喪失した。閣議は、学童疎開を決定。	日本では、米軍がサイパン島に上陸、マリアナ沖海戦で、日本海軍の空母機動戦力を喪失した。閣議は、学童疎開を決定。
七月、日本軍守備隊は玉砕。東條内閣、閣内不一致とサイパン失陥の責任を取り、内閣総辞職。米軍、グアム島に上陸、つづいてテニアン島に上陸する。	七月、日本軍守備隊は玉砕。東條内閣、閣内不一致とサイパン失陥の責任を取り、内閣総辞職。米軍、グアム島に上陸、つづいてテニアン島に上陸する。
八月、学徒勤労令、女子挺身勤労令公布。連合国軍、パリを占領。シャルル・ド・ゴール、パリ入城。重要工場に疎開命令。	八月、学徒勤労令、女子挺身勤労令公布。連合国軍、パリを占領。シャルル・ド・ゴール、パリ入城。重要工場に疎開命令。
九月	九月
十月、フランクリン・ルーズベルト米大統領は、駐ソ米国外交官を介してスターリンソ連首相に対日参戦を提案。兵役法施行規則が改正公布され、満17歳以上の男子を兵役に編入(11月1日から実施される)。	十月、フランクリン・ルーズベルト米大統領は、駐ソ米国外交官を介してスターリンソ連首相に対日参戦を提案。兵役法施行規則が改正公布され、満17歳以上の男子を兵役に編入(11月1日から実施される)。
レイテ沖海戦(10月23~25日)アメリカは、日本軍の侵攻によってフィリピンを失ったが、	レイテ沖海戦(10月23~25日)アメリカは、日本軍の侵攻によってフィリピンを失ったが、
十一月	十一月
二十四日、第一回の東京空襲	二十四日、第一回の東京空襲
二十七、二十九、三十日へと続く。	二十七、二十九、三十日へと続く。
十二月	十二月
昭和二十年、一月となり、敗色は一段と濃厚になる。	昭和二十年、一月となり、敗色は一段と濃厚になる。
国際的な動向を見詰めていた、	国際的な動向を見詰めていた、
近衛文磨が上奏文を起草し、二月、天機奉伺を名目に参内して、昭和天皇に上奏文(近衛上奏文)を捧呈する。	近衛文磨が上奏文を起草し、二月、天機奉伺を名目に参内して、昭和天皇に上奏文(近衛上奏文)を捧呈する。
公爵近衛文磨は、若くして政治家を志し、昭和十二年、1937年には、総理大臣の指名を受けた人物である。当時、険しい陸海軍人に囲まれ、優柔不断な行動を余儀なくされたが、常に新体制を模索してきた。昭和十五年(1940)、左右合同の組織として、大政翼賛会をつくって初代総裁を務め、さらに、第二次三次近衛内閣をも率いた。	公爵近衛文磨は、若くして政治家を志し、昭和十二年、1937年には、総理大臣の指名を受けた人物である。当時、険しい陸海軍人に囲まれ、優柔不断な行動を余儀なくされたが、常に新体制を模索してきた。昭和十五年(1940)、左右合同の組織として、大政翼賛会をつくって初代総裁を務め、さらに、第二次三次近衛内閣をも率いた。
しかし、敗戦を意識し始めた文磨は、陸海軍人であっても、平和を求めて外交に結び付けようとする人々に接触しつつ、ついに意を決して、天皇に上訴するに至った。	しかし、敗戦を意識し始めた文磨は、陸海軍人であっても、平和を求めて外交に結び付けようとする人々に接触しつつ、ついに意を決して、天皇に上訴するに至った。
二月	二月
三月九日から十日	三月九日から十日
東京大空襲が開始され、十三日には、大阪の空襲が始まる。	東京大空襲が開始され、十三日には、大阪の空襲が始まる。
小磯内閣が、蒋介石の率いる重慶との工作のために招いた、繆斌が来日。十七日、日本軍は硫黄島で玉砕。神戸大空襲、繆斌、東久邇宮稔彦王と会談。「国民義勇隊組織二関スル件」閣議決定、国民義勇隊創設。小磯首相、繆斌工作について上奏。翼賛政治会が解散し、大日本政治会(総裁、南次郎陸軍大将)が結成される。	小磯内閣が、蒋介石の率いる重慶との工作のために招いた、繆斌が来日。十七日、日本軍は硫黄島で玉砕。神戸大空襲、繆斌、東久邇宮稔彦王と会談。「国民義勇隊組織二関スル件」閣議決定、国民義勇隊創設。小磯首相、繆斌工作について上奏。翼賛政治会が解散し、大日本政治会(総裁、南次郎陸軍大将)が結成される。
四月一日、アメリカ軍が沖縄本島に上陸。五日、重臣会議。後継内閣について協議。ソ連が日本に対して、日ソ中立条約を延長しないことを通告。七日、海軍が建造した史上最大の戦艦大和が沈没。八日、大本営陸軍部は、本土作戦計画を策定。	四月一日、アメリカ軍が沖縄本島に上陸。五日、重臣会議。後継内閣について協議。ソ連が日本に対して、日ソ中立条約を延長しないことを通告。七日、海軍が建造した史上最大の戦艦大和が沈没。八日、大本営陸軍部は、本土作戦計画を策定。
十五日、吉田茂が終戦工作を問われ、東部憲兵隊司令部に逮捕される。	十五日、吉田茂が終戦工作を問われ、東部憲兵隊司令部に逮捕される。
ヨーロッパでは、二十五日、ドイツのエルベ川で、ソ連軍と米軍が合流(エルベの誓い)した。サンフランシスコ会議が開催され、六月まで続く。イタリア社会共和国が崩壊し、ベニート・ムッソリーニ首相らは逃亡、愛人クラウラ・ペタッチとともに逮捕されて銃殺される。三十日、アドルフ・ヒトラー独裁者自殺。	ヨーロッパでは、二十五日、ドイツのエルベ川で、ソ連軍と米軍が合流(エルベの誓い)した。サンフランシスコ会議が開催され、六月まで続く。イタリア社会共和国が崩壊し、ベニート・ムッソリーニ首相らは逃亡、愛人クラウラ・ペタッチとともに逮捕されて銃殺される。三十日、アドルフ・ヒトラー独裁者自殺。
五月	五月
ソ連軍はベルリンを占領。七日、ドイツは無条件降伏。	ソ連軍はベルリンを占領。七日、ドイツは無条件降伏。
日本では、最高戦争指導会議構成員の会合が数回開催され、終戦のための対ソ連交渉について討議される。	日本では、最高戦争指導会議構成員の会合が数回開催され、終戦のための対ソ連交渉について討議される。
六月、廣田弘毅元首相が、箱根強羅ホテルで静養中の駐日ソ連大使を訪問。六日、昭和天皇臨席の最高戦争指導会議で指導大綱を採択、九日から始まった臨時議会で、国民義勇隊創設を創設する義勇兵役法などの戦時特別法案が提出されて成立。鈴木貫太郎首相が本会議で行った演説について、議員の質問を受け、議事が紛糾した(天罰発言事件)。二十二日、御前会議で、昭和天皇は最高戦争指導会議構成員に対して終戦の決意を表明。	六月、廣田弘毅元首相が、箱根強羅ホテルで静養中の駐日ソ連大使を訪問。六日、昭和天皇臨席の最高戦争指導会議で指導大綱を採択、九日から始まった臨時議会で、国民義勇隊創設を創設する義勇兵役法などの戦時特別法案が提出されて成立。鈴木貫太郎首相が本会議で行った演説について、議員の質問を受け、議事が紛糾した(天罰発言事件)。二十二日、御前会議で、昭和天皇は最高戦争指導会議構成員に対して終戦の決意を表明。
七月、十日、最高戦争指導会議が開催され、ソ連に特使の派遣を決定、十二日、鈴木首相、木戸幸一内大臣を通じて、昭和天皇から直接、近衛公に対してソ連特使の下命を願ひ出る。近衛公は参内して昭和天皇からソ連特使就任を命ぜられ、受諾。東郷外相は、佐藤尚武駐ソ日大使を通して近衛特使派遣を急報した。十三日、佐藤駐ソ大	七月、十日、最高戦争指導会議が開催され、ソ連に特使の派遣を決定、十二日、鈴木首相、木戸幸一内大臣を通じて、昭和天皇から直接、近衛公に対してソ連特使の下命を願ひ出る。近衛公は参内して昭和天皇からソ連特使就任を命ぜられ、受諾。東郷外相は、佐藤尚武駐ソ日大使を通して近衛特使派遣を急報した。十三日、佐藤駐ソ大
昭和十九年 一月	昭和十九年 一月
二月	二月
三月	三月
四月	四月
五月	五月
六月	六月
七月	七月
八月	八月
九月	九月
十月	十月
十一月	十一月
十二月	十二月

武蔵が原 大正十二年度寮歌

一 武蔵が原の末遠く 櫟林に闇落ちぬ
煙は低く雲迷ひ 夜は陰惨と暮れ行けど
地に簞り立つ松の幹 陽に赤々と燃ゆるかな

二 燃ゆる思に胸溢れ 櫟林の奥に湧く
泉掬ふと分け入れど 迷羊遂に術もなく
丘辺に立ちて嘶けば嘯けば 頬紅に染まるかな

三 道渾沌と闇深く 夕づく星の影もなし
いざや彼方の丘の上 薄紅に匂ひ出し
聖き光を懐かしみ 己が古巣に帰りなん

四 嗚呼滾々と湧き出づる 泉の美酒を掬ひつゝ、
今宵ぞ明き灯の下に 互ひに酌まん友や誰れ
友よ腕を差し出せ 一葉緑我にあり

五 葉盃溢れ滴れば 膝に乱る、夜の花
泉の美酒の甘くして 愉楽の契果知らず
三年の月日泡沫と 消えんも淡き夢の寮

六 夜咲く花の落散りて 六寮闇も深き時
樹陰を忍ぶ月影ぞ 若き眠りの胸に射す
君よ聞かずや硝子戸に 夜を啜り泣く郷愁

作詞 藤倉 寛三
作曲 諸井 三郎

昭和三年寮歌

春

春の調のときめきに 微笑む花を積みみせて

夢にまじろむ佐保姫の 玉の輿来ぬ瑤沙原
縹の空に揚雲雀 繚爛の野に舞う誇張
情操のゆたけき若人は 花を梅の草枕
草に五月の香せば 棟の緒琴は高鳴りて

真紅に燃ゆる想あり 鳴呼此の野辺に並び立つ 若き心の憩屋は
春永遠の国なれや 春とこしへの国なれや

校歌

一 大いなるかな武蔵野は 天の紺碧地の緑
渺茫として果もなし あゝ人生の朝にして
自由の翼音高く 理想の国を天翔ける
我等に何ぞふさわしき 大いなるかな天地

二 美しいかな武蔵野は このもかものに桜草
繚乱として乱れ咲く あゝ人生の晴にして
シンクの血潮色若く 至純の郷にあこがる、
我等に何ぞふさわしき 美しいかな天地

三 壮なるかな武蔵野は 秩父嵐のひたよせに
颯々として渦を巻く あゝ人生の戦に
久遠の勝を制すべき 力の戦士義の勇士
我等に何ぞふさわしき 壮なるかな天地

四 杜鵑血に鳴く時五月 花橋も打ち香り
心の駒の勇むかな 若武者立ちて原頭に
睥睨するや関八州

五 武蔵が春は深うして 人月に戯れつ
歡樂の夢覚めぬ時 悍馬に当つる鞭一つ
原頭翔くる人や誰れ

六 嗚呼燦爛と陽は沈む 瑤沙が丘の夕まぐれ
治世に乱を忘れざる 健兒六百集ひては
如何なる覇業か成らざらん

七 筑波風しの吹き荒れて 醜草靡く武蔵野に
今健剛の敵もなし 脾肉に歎く若武者が
大拳襲ふや西の国

八 今鎧袖の二触に 絢爛の夢に酔ひしれし
敵を碎かん時は来ぬ 嗚呼我舞はん勝鬪を
処は駿河山は富士

静高遠征歌

作詞作曲者不明

使はソ連外務省を訪ねる。十七日、ポツダム会談。二十五日、原爆投下の日程が正式に決定される。二十六日、ポツダム宣言が発表される。翌日、外務省は、ポツダム宣言について検討。東郷外相ら外務省首脳は、同宣言の全面受諾に賛成。東郷外相が参内し、ポツダム宣言について言上。二十八日、最高戦争指導会議情報交換会の後、鈴木首相が、新聞記者会見で「ポツダム宣言を黙殺」と発言。

八月初旬、東京新橋の片山哲弁護士事務所原彪、鈴木文治らが社会主義政党政結成について会合。六日、ポツダム会談終了し、同日午前8時15分、米軍が広島市に原子爆弾を投下。八日、深夜ソ連が日ソ中立条約を破棄、日本に宣戦布告。九日未明、ソ連軍が満州に侵攻、対日参戦開始。

同日、午前、ポツダム宣言の受諾の可否について最高戦争指導会議が開かれる。午前11時02分、米軍が長崎市へ原子爆弾投下。十日、ポツダム宣言の受諾の可否について御前会議が開催され、未明、御前会議で「国体の護持」を条件に日本のポツダム宣言の受諾を決定、連合国側に向けて打電する。

十一日、ソ連軍が日ソ国境を越えて南樺太に侵攻する。十三日、最高戦争指導会議・閣議は紛糾したが、十四日 午前11時、昭和天皇が御前会議でポツダム宣言受諾の意思を表明。午後9時、ラジオで「15日正午より重大発表あり」という旨の放送。午後11時、ポツダム宣言受諾を連合国側に通知。

午後11時20分、昭和天皇が玉音放送を録音。

ダグラス・マッカーサー米太平洋陸軍司令官が連合国軍最高司令官(Supreme Commander for the Allied Powers、SCAP)に就任。大本営が攻勢作戦の停止を発令(自衛反撃は継続)。

中ソ友好同盟条約締結。十五日、陸軍の一部がクーデター未遂。阿南惟幾陸相が自殺。玉音放送(終戦の日)。

鈴木貫太郎内閣総辞職。芦田均、安藤正純ら新党について交詢社で会合。

大阪にいた西尾末広、京都の水谷長三郎を訪問し、社会主義政党政結成と労働組合再建を提唱。十六日、スターリンソ連首相、北海道占領をトルーマン米大統領に要求。トルーマンは18日に拒否回答。

十八日、満州国皇帝愛新覺羅溥儀退位。ソ連軍が千島列島で攻撃開始。

十九日、大本営が戦闘中止を発令。

二十三日、スターリン、日本軍捕虜のソ連国内への移送を指令(シベリア抑留)。

二十五日、連合国軍先遣部隊が沖繩本島より厚木飛行場に到着。

蒋介石・毛沢東による国共首脳会談開催(重慶会談)。

三十日、マッカーサーが沖繩本島より厚木飛行場に到着し、米太平洋軍総司令部(CHQ、USAPA)を横浜税関に設置。

ソ連は北海道占領への軍事行動を停止。

三十一日、米軍主力が横浜・館山に上陸する。

二月 東京湾上の戦艦ミズーリ艦上で、重光葵外相、梅津美治郎参謀総長らが降伏文書に調印(第二次世界大戦終結)。

ホー・チ・ミンを主席とするベトナム民主共和国が成立。マッカーサー元帥、北緯38度線を境とした米ソによる南北朝鮮の分割統治を発表(連合軍軍政期)。

三日 ルソン島の日本軍降伏。四日 ウェーク島(中部太平洋のサンゴ礁で、かつてはアメリカ海軍の重要な拠点)の日本軍が降伏。

五日 ソ連軍、千島列島の色丹島を占領。北方四島の占領を完了。関東軍首脳部がハバロフスクへ移動し、後に五十七万人がシベリアに抑留される。

マレー、シンガポールにイギリス軍上陸。

六日 鳩山一郎、芦田均、河野一郎、斎藤隆夫ら交詢社で会合。朝鮮人民共和国が建国宣言(1日に瓦解)。

八日 連合国軍、東京を占領。都内の建物500箇所以上を接収。

九日、支那派遣軍総司令官が降伏文書に南京で署名。

十五日 東京・日比谷の第一生命館を接収。昭和天皇、CHQ本部へ行幸。

十月十五日 本土の日本軍、武装解除を完了。十一月十八日皇族資産凍結。

十二月六日 近衛文麿や木戸幸一など民間人九人を逮捕。七日 農地解放指令(農地の小作人への分配)。三十一日 「修身、日本歴史及び地理停止二関スル件」(覚書)を発令。修身、国史、地理の授業は中止、教科書は蒐集される。

昭和二十年 一月

三月 東京大空襲

三学期試験

四月 本土作戦計画の策定

五月 独伊両国が崩壊

五月 ドイツ無条件降伏

六月 空襲で校舎消失

六月 御前会議で昭和天皇終戦の決意を表明

七月 ポツダム会談

八月 原子爆弾投下

八月 ポツダム宣言受諾

九月 玉音放送

九月 一、二学年授業開始

十月 文理で転科が認められる

十一月 新関良三校長赴任

十二月 授業終了

平成九年三月、第二十三回生は、卒業五十周年記念文集「櫟林」四百頁を編集、発行した。
この文集は、恩師像を含むグラフィア、各クラスの生徒名など、多くの資料を記し、当時の世相までを彷彿とさせる歴史書ともなる。素晴らしい出来栄である。
また、平成四年九月、旧制浦和高校同窓会の記念事業として、「浦和高等学校史」が発行されている。

記念誌から当時を偲ぶ
以下、「櫟林」誌を頼りにし乍ら、当時のことを振り返ってみよう。

昭和十九年

四月
・1(土) 新入生(二十三回生)入学式、安斎校長告辞、入寮式はテニスコートで、寮歌「城北十里」、夜は歓迎ストーム
・2(日) 各班の親睦会、滝大佐の訓示、夜は晩餐会
・3(月) 氷川神社に参拝
・4(火) 授業開始、寮歌練習
・8(土) 調^{つぎのみや}神社に参拝
・15(土) 柳田謙十郎先生の講演「日本文化と日本精神」を聴講
・24(月) 全寮生夜行軍で東京へ二十五キロ 靖国神社臨時大祭

五月
・5(金) 防空演習
・7(日) 皇居へ、靖国神社参拝
・8(月) 春季行軍大会四十キロ
・13(土) 初めて外泊が許される
・15(月) 農作業 報国農場で
・19(金) 寮の記念祭始まる
・20(土) 突然警戒警報
・21(日) 体育祭 午後 音楽祭
・27(土) 第一次試験始まる
・31(水) 第一次試験終わる

六月
・1(木) 第一回室替え 夜理二の組コンパ

・12 各班対抗の大宮行軍
・18(日) 全寮退治大掃除
・30(金) 理一、二組 麦刈作業

七月
・16(日) 寮新役員の任命
・18(火) サイパン玉砕の報
・26(木) 第二次試験始まる
・29(土) 東三寮長を予備学生として送る、最初の壮行会

八月
・31(月) 第二次試験終わる

・1(火) 特別夏期鍛錬 農作業 戦技訓練、班鍛錬等
・11(金) 二学期始まる
・14(月) 第二回室替え

九月
・10(日) 戸田橋行軍大会

十月
・23(月) 八木秀次氏の講演「軍事と科学」
・29(日) 埼玉県中条村・藤沢村に勤労動員、11・11までに

十一月
・13(月) 授業再開
・27(月) 二学期本試験始まる
・29(水) 夜の空襲 壕へ待避

十二月
・1(金) 二期期末試験終わる
・4(月) 全寮コンパ(最初の試み)
・8(金) 宣戦三周年、調神社へ
・27(水) 昼の空襲 東京上空は高射砲の煙幕 敵機撃墜か

昭和二十年

一月
・1(月) 拝賀式 空襲3回
・6(土) 授業開始
・11(木) 入試の第一次発表
・15(月) 残寮願の提出

二月
・8(木) 文科系には許されなかった兵役に就くため、二十三回生第一号が入営、その後八月までに二十二回生、井上芳夫、飯塚明、

市村矩厚、川村正保、笹谷準一、沢田健二、土肥英二、萩原宏平、水谷俊忠、若槻宏義が入営
・14(水) 室替え 各室4人ずつ(それは6人ずつ)
・16(金) 初めて艦載機の空襲

三月
・2(金) 吉岡教授、寮責任者に
・6(火) 二年寮生送別コンパ 浦和で徴兵検査
・9(金) 東京大空襲 本所、深川の密集地帯
・10(土) 東京大空襲 電車、大宮駅等に罹災者の群
・15(木) 第三学期試験 20まで
・21 硫黄島最後の総攻撃の発表
・27 米軍沖繩に上陸

四月
・14(土) 夜の大空襲、ついに浦和へ 寮宿直の柳屋先生宅も罹災
・15 大宮も空襲で、鉄道工場と中山道の一角三百戸位が焼かれる

五月
・2 ムツソリーニ処刑、ヒットラー自殺の報
・7 第二学期第一学期試験 10まで
・14 工場動員 理科二、三組は王子の理研庄延工場へ、文科及び理科一、四組は与野の新潟鉄工へ、一部は小林理研、陸軍第七技術研究所へ
・15(火) 工場人所式
・25 夜の空襲で校舎が消失した図書、物理器具等を搬出
・26(土) 米機捕虜が校庭に並べられる

六月
・1(金) 野島教授応召
・17(日) 樋口、戸谷、寺島、飯塚、中山、別所、前川の残寮が内定
・19 武原寮最後の寮歌祭
・25(月) 残寮七名の合宿始まる
・26 沖繩島最後の報せ

七月
・1(日) 新入生入学式 入寮式 学徒隊編成 夜ストーム

八月
・6 広島へ原爆投下

七月
・7 井上芳夫 放射能を被爆
・10(金) 新潟鉄工の二年生の授業を隔週の金曜に四時間行うことになり初日
・11 ソ軍 朝鮮・樺太国境侵入
・14 明日から三日休業(お盆休み)
・15 終戦 詔勅は各人各所で聞く
・18 全校正雨天体操場に会し、校長の訓示を聞く
・24 一、二年生とも授業開始

九月
・18(火) 高校の三年制復活し、理科から文科へ転科が認められる

十月
・8(月) 自治寮を発足 宿直教官廃止
・16(火) 第二学期試験

十一月
・16 陸海軍からの転入者が京から出席 加藤道理チフスになる
・27 安斎校長 弘前高校長に転入し別れの辞
・28 新関新校長赴任の挨拶

十二月
・7 新関校長歓迎晩餐会 夜ストーム
・8(土) 授業終了

昭和二十一年

一月
・15 三学期始まる 二部制で午後四時間の授業に(四十人中十八人位)
・16 寮の食堂に食券制導入 不正により賄長・賄婦解雇
・26(土) 夜の寮自習室で柳田謙十郎教授の講話(ラジオ放送三分)

三月

22(金) 第二学期第三学期試験 26まで

四月
・1 第三学年始まる 五十日の休暇の始まり
・10(水) 初の総選挙
・23 弊原内閣総辞職

五月
・1 メーデー復活 十一年ぶり
・20 学校再開 校舎は西側の旧陸軍健民修練所(進駐軍駐屯地)と改築おくれ一週間延びる 理科は旧三組が他の組に振り分けられ、五組が四組になる 文科は一組が二組に増える
・21(火) 始業式 22、23は校舎整備アルバイト 机運び
・27 授業開始 必須科目のみ この頃 昭和二十年度追遠歌「おとなへる」井上芳夫作詞、山形庫之助作曲

六月
・1 6月より寮の食費値上げ 45円が一挙125円に
・10 授業に选修科目加わる
・21(金) 新入生入学式 入寮式 歓迎ストーム

七月
・13(土) 一学期終わる

八月
・11(日) 帝劇でバレエ「白鳥の湖」金融緊急措置、預金封鎖

九月
・15(日) 国鉄 解雇を撤回 ぜネスト中止

十月
・1 二学期始まる 式のみ
・2 授業開始 二月半ぶり
・28(月) 三年前期試験 11・2まで

十一月
・6(水) 後期始まる
・20 大学志望の調査
・29 第二十四回寮記念祭始まる

公開は三、四年ぶり

十二月
・1(日) 一般公開 仮装行列
・17 授業終わる
・21 和歌山沖大地震

昭和二十二年

一月
・13(月) 三学期始まる

二月
・1 ゼネスト禁止 マ元帥
・7 大学入試要綱発表
・8 授業参観日
・10(月) 卒業試験 16まで
・16 寮で旧役員送別コンパ、高橋写真館で撮影

三月
・25 八高線列車事故
・28(金) 卒業懇談会

四月
・13(月) 三学期始まる
・15(月) 三学期始まる

五月
・13(月) 三学期始まる

六月
・13(月) 三学期始まる

七月
・13(月) 三学期始まる

八月
・13(月) 三学期始まる

九月
・13(月) 三学期始まる

十月
・13(月) 三学期始まる

十一月
・13(月) 三学期始まる

十二月
・13(月) 三学期始まる

昭和二十二年
三学期始まる
柳田謙十郎教授
講話 ラジオで

二学期始まる
授業終了

三学期始まる

大学入試要項発表

東京帝国大学合格発表

「市民フォーラム」の活動

「市民フォーラム」は、地域住民と行政に対して取材活動を行ない、報道によって市民の公共参加を推進します。また市民間のコミュニケーションの増進に努めます。

読者の「オピニオン」(意見・感想)をお寄せ下さい。

TEL 090 (3048) 5502

編集部原宛にどうぞ